

若州人形座旗揚四十周年 竹人形文楽

ほろ水替ご女ぜふりし

原作 水上 勉

演出 幸 晃彦

語り 飛鳥井かづり

2026年

6月13日(土)・14日(日)

午後1時30分開場 午後2時開演

会場 若州一滴文庫くるま椅子劇場

料金 3,000円(全席自由) ◆予約開始日/4月11日(土) 定員 160名

主催/若州一滴文庫

題字/渡辺 淳

■お問い合わせ・お申し込み

若州一滴文庫

〒919-2116

福井県大飯郡おおい町岡田33-2-1

特定非営利活動法人 一滴の里事務局

TEL:0770-77-2445 FAX:0770-77-2366

HP:<https://www.itteki.jp/>

[休館日] 火曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

QRコードを読み取って
スマホからカンタンに
チケットお申し込み!



若州一滴文庫
ホームページ



若州人形座公演

はなれ瞽女おりん

あらすじ

大正中期、第一次世界大戦が終わり、シベリア出兵、米騒動という不況が世の中をおおった暗い時代――。

瞽女(ごぜ)とは、集団で三味線を弾き、瞽女唄などを唄いながら瞽女宿を指して旅をする、盲目の女旅芸人のことである。異性との交わりを厳しく禁ずるといふ瞽女の戒律を破ったために、一座からはずされ、ひとりで門付をしなければならなかった者を「はなれ瞽女」という。

若狭の片田舎に生まれ三歳で盲目になった柿崎りんは、越後・高田の瞽女屋敷に引き取られ芸を仕込まれるが、ある祭りの夜、若い衆に手込めにされ、掟に従い、はなれ瞽女となった。

とある阿弥陀堂で、村の男に襲われるおりんを助けてくれた男は下駄職人を装うが、実はシベリア出兵を拒否した脱走兵だった。

だが、おりんは彼を兄のように慕って、一緒に旅を続ける……。

「はなれ瞽女おりん」の一場面



原作 水上 勉

脚本・演出 幸 晃彦

人形美術

衣装デザイン 植田いつ子

かしら 高橋弘子

竹人形ボディ 岸本一定

出演

語り 飛鳥井かづり

*

静永 鮮子

塚原 史郎

吉田 貴志

くぬぎ 森子

工藤 琢人

河合 厚志

スタッフ

照明 福井邦夫

中村藍子

舞台監督 須川由樹

(有)ティーアンドクルー

中井麻美

舞台美術 幸 晃彦

協力 (有)アート ステージ

Jelly Beans

島田慎二

向坂典子